

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

御嶽山で本日（21日）16時06分に火山性微動が発生しました。この微動に伴い、山頂方向が隆起する地殻変動が発生しました。また、山頂付近を震源とする火山性地震も増加しています。噴火は認められません。

御嶽山では火山活動が高まっております。引き続き、地獄谷火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

○活動概況

本日（21日）16時06分に火山性微動が発生しました。この微動に伴い、山頂方向が隆起する地殻変動が発生しました。また、山頂付近を震源とする火山性地震も増加しています。なお、監視カメラでは、噴火は認められません。また、噴気活動に特段の変化はありません。

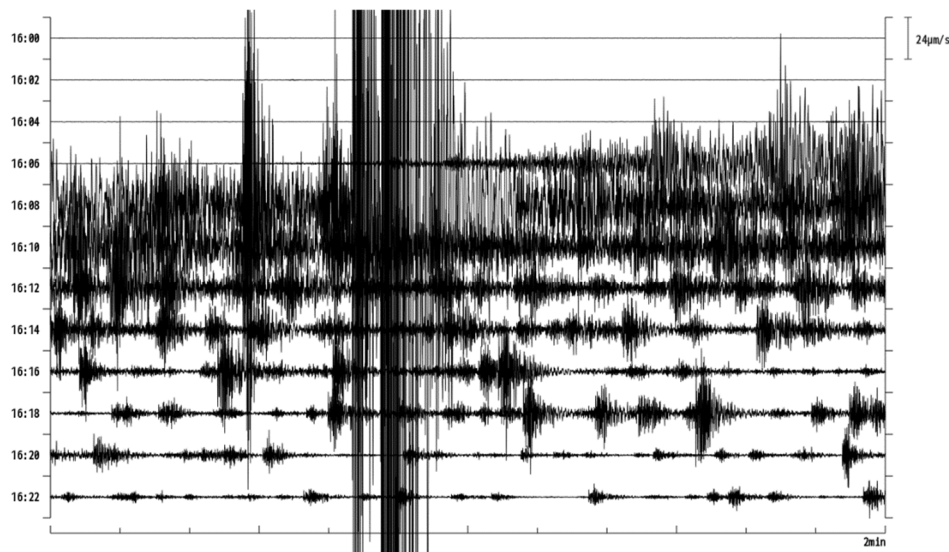


図1 御嶽山 観測された火山性微動及び火山性地震（2025年1月21日16時00分～16時24分）
田の原上観測点の上下動成分の波形を示します。

- ・本日（21日）16時06分に火山性微動が発生しました。この火山性微動の継続時間は約14分でした。また、火山性地震の発生頻度の増加も認められます。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』『基盤地図情報（数値標高モデル）』及び国土交通省発行の『国土数値情報』を使用しています。

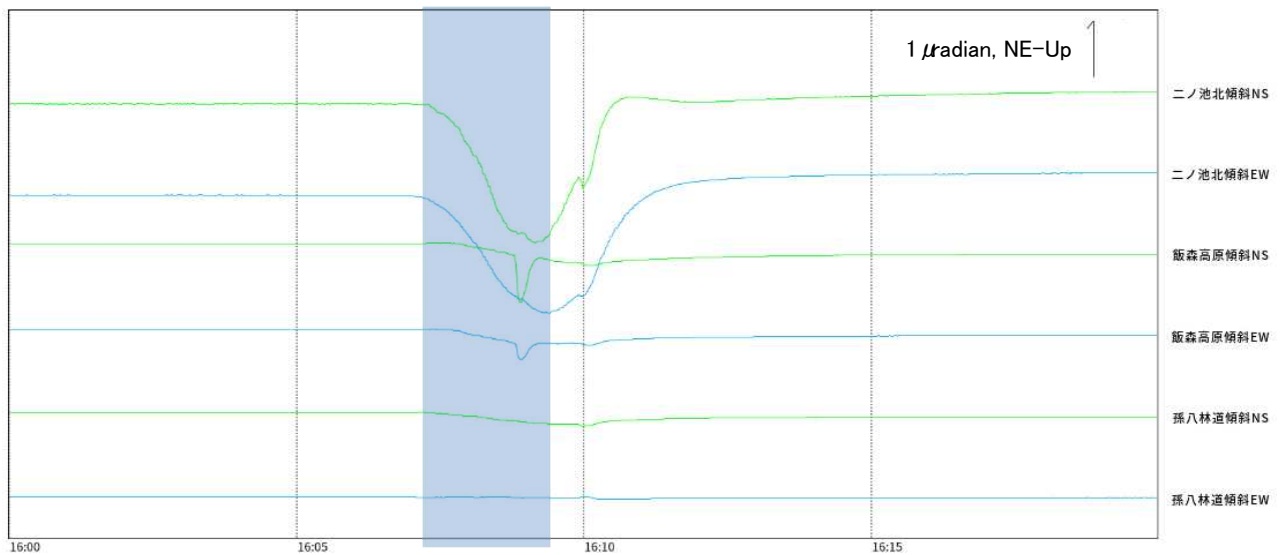


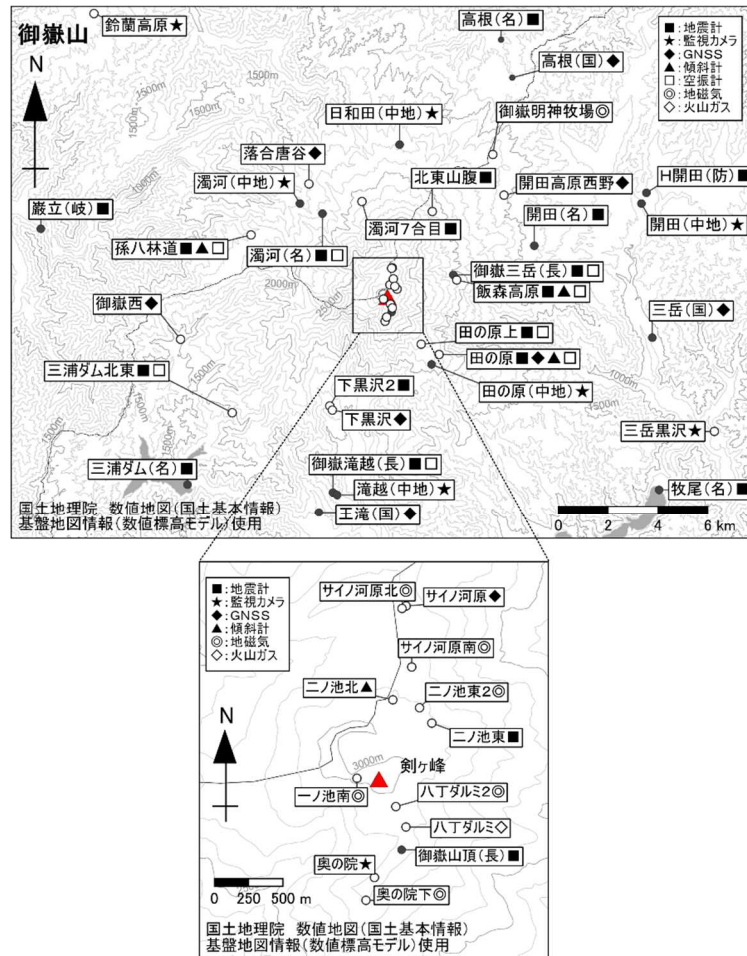
図2 御嶽山 火山性微動に伴い観測された傾斜変動（2025年1月21日16時00分～16時20分）

- ・本日（21日）16時06分に発生した火山性微動に伴い、山頂方向が隆起する傾斜変動が認められました（青網掛け部分）。観測された山頂方向の隆起を示す傾斜変動量（青網掛け部分）は二ノ池北傾斜計観測点で2.3マイクロラジアン（南上がり）、及び2.0マイクロラジアン（西上がり）でした。
- ・2022年2月23日にも、火山性微動に伴う傾斜変動が観測されましたが、二ノ池北傾斜計観測点で0.7マイクロラジアン（南上がり）、及び0.3マイクロラジアン（西上がり）でした。



図3 御嶽山 地獄谷火口の状況（2025年1月21日16時08分）
（奥の院監視カメラ）

- ・噴火は認められません。
- ・噴気活動に特段の変化は見られません。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(中地): 中部地方整備局、(防): 防災科学技術研究所、(名): 名古屋大学、
(長): 長野県、(岐): 岐阜県

図4 御嶽山 観測点配置図